

## 日独共同大学院プログラム 事後評価結果

コーディネーター所属機関・部局・職・氏名 東北大学・大学院理学研究科

教授・中村 美千彦

研究課題名：地球深部揮発性元素循環研究に関する日独共同大学院プログラム

評価結果	
	S 想定以上に意義があった
○	A 意義があった
	B ある程度意義があった
	C ほとんど意義がなかった
所見	
<p>日独両専攻に所属する大学院生が共通の講義・実験・演習を履修し、両専攻に所属する教員の共同指導の下で研究し博士の学位を取得するというプログラムが確立され、地球深部物質科学分野において国際的に活躍できる若手研究者育成を行っていること、本プロジェクト以外にも複数の教育研究経費を獲得して大学院生の教育研究を支援していること、共同研究によって地球深部物質科学に関する多くの研究成果が一流国際誌に掲載されたことなどは、高く評価できる。</p> <p>本プロジェクトにおいて、教員・大学院生の相互訪問や共同セミナー、野外巡検などを通じて、国際的に活躍できる若手研究者の育成が行われた。さらに、本プロジェクトをモデルとして大学内での他の海外連携大学との共同教育体制が整備されるといった波及効果も得られている。</p> <p>一方、参加大学院生が両専攻でそれぞれ数10名いるにもかかわらず、国際誌に論文を発表している優秀な大学院生が両専攻でそれぞれ数名程度と少なく、また岩石・鉱物分野以外の教員の関与があまり認められないことから、学位プログラムの実効性と専攻全体としての取組に改善が望まれる。</p> <p>得られた研究成果については、当該分野及びその周辺分野の近年の研究動向に照らし、特段に斬新なものとは感じられなかったものの、十分高いレベルにあることは間違いなく、地球科学的に重要な意義を有していると思われる。今後の更なる発展に期待したい。</p>	